

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	独自のクレド(理念)があり、事務所・玄関に掲示している。定期的に行われる運営者主催の全体会議では、理念に基づく話があったり、研修を行っている	定期開催の全体会議では、運営者から理念に関する説明を随時行っている。また、経営者が直接に実施する研修も年数回あり、事業所の方向性を統一している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域からのお誘いも多く、お茶のみサロンや盆踊りなど地域行事にも多く参加している。地域の野菜販売や喫茶店なども利用している	設立以来、散歩などの外出の機会を可能な限り設けて、地域との日常的な交流を積極的にいき、地域での事業所の認識を高める工夫をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じて、認知症の周辺症状や支援方法などを、実例など出しながら分かりやすい言葉で話をしたり、抱えている問題について助言している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	二か月一回行い、毎回多くの方に出席して頂いている。当ホームの行事に参加して戴き認知症の方に触れ合う機会を設けたり、地域での課題に取り組み、積極的な話し合いが行われている	2か月に1回の運営推進会議には、区長、地区の福祉推進員、住民代表、行政職員等が参加している。また、行事日に開催する場合もあり、利用者との交流や施設の理解を深める工夫がなされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には、長野市の高齢者活躍支援課や地域包括の方に毎回出席して頂き、意見や情報の交換を行っている。特に包括とは近隣住民の情報を戴き、地域の方の入居の支援をしている	運営推進会議での情報共有を行っている。また、地域包括支援センターとの連携を密に取り、地域住民の入所支援に力を入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者による研修があり、基本的な知識は身に付けている。複数の職員が研修に行き、内容を共有している。玄関の施錠は徘徊防止と防犯のため行っているが、ご家族には理解頂いている	利用者の意図しない外出の危険性を低減するために、やむなく玄関に施錠しているが、施錠の必要性についてが毎月のカンファレンスで評価を行い、施錠の恒常化を防止している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営者による研修があり、基本的な知識は身に付けている。少しの傷やアザにも細心の注意を払い、委員会を発足し原因究明に努めている。		

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者が居るため、学ぶ機会はある。現在は無いが、必要性のある利用者の関係者にアドバイスをしたり、支援などもしていた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に十分説明を行い、不安なく入居できるよう心掛けている。また契約の解除に対しては、スムーズに行える様適切なアドバイスを行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一度は家族会を設け、意見・要望を聞いている。面会時には様子を話したり、家族とのコミュニケーションを摂るようにしている。	昨年は敬老会の日に家族会を開催し、家族等からのご意見を拝聴している。また、毎月の写真やおたよりの送付で、交流のきっかけを作る工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議により、職員の意見を聞く場を設けている。また、夏・冬のボーナスの時期には一人ひとりと面談を行い、悩みや要望を聞いている	毎月の全体会議で、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。また、年2回の査定の個人面談の機会でも、意見や提案を受け入れ、モチベーションの維持にも努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働者共済に加入し、職員は利用している。また、職員行事の際は、会社からの補助があり、親睦により明日への活力になっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や勉強会の参加を促し、スキルアップを目指している。また運営者自らが勉強会を開催し、介護技術だけでなく、医療の知識にも力を入れている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営者は、オレンジカフェのボランティア活動に参加し、同業者間のネットワーク作りにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談を行い、今までの生活を大切にしながら安心して暮らせるよう、職員全員で情報を共有しご本人との関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談で、家族の思いや要望を十分お聞きし、安心して入居できるよう説明し、不安なく何でも話せる雰囲気作りを心掛けている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・ご家族・居宅介護支援事業所などから様々な情報を収集し、意見交換を行い検討し、何が必要なのかを見極めながら、的確に支援が行える様努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	大きな家族と捉え、出来る事はやって頂く事とし洗濯・掃除など職員と一緒にいたり、味噌汁作り、雑巾縫いなど、人の役に立っていると思う気持ちを大切にしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出・外泊の機会を作るお手伝いしたり面会時は居室にてご家族とゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、レクレーションなど、一緒に参加して頂く機会を設けている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅で過ごしていた時の知り合いや親せきが気兼ねなく面会できる雰囲気作りに努めている。また近所に住んでいた方には、自宅まで散歩しながら馴染みの場所を思い出して頂く支援をしている	利用者には、近隣にご家族やご自宅をもつ方も多く、ほぼ毎日、面会者が訪れている。また、希望に応じて、馴染みの場所への外出支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室で過ごされる方が少なく、ほとんどの方が一日をフロアで過ごされている。おしゃべりしながら茶碗拭きをしたり、味噌汁を作ったり交流の場を多く作っている。他者に目を向けて頂き、支え合いの支援を行っている		

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方のご葬儀になるべく多くの職員が行かせて頂きホームでの思い出話をさせていただったり、入院した方には経過を見に行きながら、ご家族の悩みなどあれば相談に応じたりしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人に担当者を配置し、認知症で自分の思いや希望が話せない方を、担当者やご家族、計画作成担当者などと検討を行い、本人の意向に添えるよう努めている	利用者毎の担当者を定める事により、利用者やご家族の希望や意向に沿った、継続的な支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族から生活歴をお聞きし、その方がどのように生活し生きて来たのかを把握し、会話の中に取り入れる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの生活リズムを大切に、ホームの中での役割や他者との関係を大切に過ごせる環境を作っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアの問題が発生した時は、即朝礼にてカンファレンスを行い解決策を探している。月に一回は、全体のカンファレンスを行い、介護計画や支援方法の話し合いを行っている	毎月のカンファレンスで、介護計画や支援方法の適切さを評価している。また、事例を共有する事により職員全員の理解を深めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス提供記録・排泄表・水分表・バイタル表・個人記録を使用し、朝礼・引継ぎで情報を共有している。サービス提供記録は介護計画作成の土台となっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況に応じて臨機応変に対応できるよう取り組んでいる		

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問理美容・マッサージ・健康体操・傾聴ボランティアな利用し、安全で豊かな生活が送れるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前のかかりつけ医をそのまま引き継いでも構わないが、当ホームでは訪問診療を利用している。月に二回来ていただき、状態の把握をして戴いている。定期訪問の他にも状態に応じて往診もして戴いている	入所前のかかりつけ医を優先しているが、ホームと連携し訪問診療を行なう医師がおり、訪問健診や緊急対応をしていただいている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は常時いる訳ではないが、サービス提供記録より情報を共有したり、処置ノートにより、介護員に適切な指示をしている。看護師不在の時でも、常に連絡は取れる体制がある		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に医療面と生活面での情報を提供し、安心して治療が出来るよう支援します。入院中に面会に行き、医療機関から経過についての情報を戴いたり、退院に向けてご家族・医師等とカンファレンスに参加している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の時点から終末期についての話をさせていただき、ご家族の考えをお聞きし、終末期を迎えた時は、ご家族に医師より説明をして頂き、方向性を決め万全な体制で終末期を迎えている。何より寂しくないよう、孤独死を出さないようチームケアの体制を整えている	終末期には、ご家族や医師等との話し合いの上、利用者毎の対応マニュアルを作成し、漏れの無い対応を実現している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアル・フローチャートを作成し社内研修で確認している。突発的な嘔吐や食べ物の詰まり対策として、ノロ対策やハイムリック法を看護師指導の下、訓練を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	他施設の火災訓練を見学させて頂き、当ホームでも参考にし夜間時想定訓練も行っている。地域の方にも協力要請のお願いをしたり、運営推進会議では、常に災害についての話が出ている	定期的な防災訓練の後には、反省会を行い、防災体制の強化に結び付けている。また、夜間訓練も実施し、緊急時対応の有効性を高めている。	施設は水害などの災害に強い建物であるため、地域の防災対策拠点としてのニーズが寄せられ、対応を検討中であった。今後の活動を期待したい。

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修により個々の人格を尊重した取り組みについての勉強会をしたり、本人本位の生活を大切にし、その方に合わせた対応を心掛けています	介護の場面では、利用者を尊重し、かつ、親しみのある声掛けを行っている。また、トイレ・浴室・居室でも、利用者のプライバシーが守れる施設設計となっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩に行きたい、コーヒーが飲みたい等、自己決定が出来るよう働きかけている。認知症による同じことの訴えに対しても否定する事無く、受け入れて支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の時間を大切にし、希望に添える支援を心掛けている。散歩に行きたい・買い物したい・後でご飯を食べる等の訴えに臨機応変に対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分が着る服はなるべく自分で選んで戴いたり、男性入居者は自分で髭を剃っていたり、入浴後化粧水を付けたり髪をとかす事も希望者にははしていただいている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に味噌汁作り・おやつ作り・みんなで食べる漬物を漬けたりフキのお作り、コロッケ作り等出来る範囲でキッチンに集まり行っている。また盛り付けやお茶配り・茶碗拭きなど毎日行っている	利用者の状態や意欲に合わせて、食事の配膳や片づけに参加して頂いている。また、おやつレクを週1回開催し、食事の楽しみを広げている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの摂取量を把握し、盛り付け・形状などその方に合った物を提供している。摂取量・水分量などはチェック表にて管理している。中々水分を飲まない方には、水分ゼリーなど形を変えて提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月に1回歯科衛生士さんに口腔チェックと指導をして頂き、どの職員も同じケアが出来る。残渣確認や義歯の消毒など毎回行っている		

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄係が中心になってその方に合った排泄を常に考えている。紙パンツから布パンツに変更になった方が多数いる。排泄表を使いその方のパターンを把握している	排泄係を設置し、利用者の排泄パターンを記録し、利用者の状態に合わせた支援を職員で考え、共有して取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表により便秘の状態を把握し、水分摂取や運動をしたり、乳酸菌飲料や食物繊維の多い食品の提供に心掛けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決めず、一人ひとりのペースに合わせて提供している。また入浴時間も体調を見ながらその方の希望に合わせてゆっくりと入って頂いている	可能な限り利用者の要望に沿った、入浴が出来るようにしている。また、希望により、他のユニット(上下階)での入浴も受け付けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアのソファは皆さんの休息の場になっており、午睡もほとんどの方がソファで休まれている。就寝も中々寝付けない時は、職員と一緒にソファで休む時もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師を中心に薬の管理を行っている。内服薬のファイリングがあり情報を共有し、症状に変化があった時は、医師と連絡を取り相談している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のレクリエーション・毎月の行事・誕生日会等個々に合った支援を心掛けている。外部からのボランティアは楽しみの一つになっている。出来る事は何でもお手伝いしていただいている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に出掛ける事を日課としている。足湯・外食や季節の外出にも積極的に出掛けている。地域の行事にも地域の方の協力を得ながら参加している	散歩などの外出支援を積極的に行っている。また、特定の利用者以外に外出支援が偏らないように、外出記録をとり、出来るだけ均等な支援の実現に努めている。	

さわやか川中島 第二ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いの管理は事務者でしているが、日用品の買い物や食べ物など、訴えがあれば、いつでも希望の物が買える旨伝え、支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望があればご家族の負担の無い範囲で電話をすることは出来る。ご家族からの電話も取り次ぐ事は出来る。年賀状など個人的に届いたものは本人に渡し、喜ばれている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	広い空間にソファやテーブルを置き、ゆったりと過ごして頂いている。天気の良い日はベランダでお茶を飲んだり日向ぼっこができる。ベランダから畑が見え、緑に触れる心地よさがある。臭いには注意を払い排泄等の臭いがしない	共有ホールの空間が広く、ソファやテーブルなどをゆったりと配置し、過ごしやすい空間を作っている。反面、運動量が少なくなる利用者も多く、ソファの配置などの工夫を常時行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階・2階の入居者で区切らず、自由に行き来出来るようにしている。席順にも気を配り話しやすい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、なるべく新調せず馴染みの物を持参して頂くようお願いしている。手作りカレンダーや写真を壁に貼ったり殺風景にならないよう工夫している	利用者やご家族と相談の上、馴染みの物等を利用した、個人が心地よく過ごせる空間づくりを支援している。夫婦での入居も可能なように、居室には連結可能な部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全面を考え、転倒リスクのある方にはセンサーやセンサーマットを設置し、見守りをしながら自立した生活が送れるよう支援している		